（版權所有）

明治二十一年十月廿四日印刷
明治二十一年十月廿六日出版

通信女學講義録

每月一回發行
壹冊正價廿錢
全國無郵送稅

第拾四卷

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○百人一首講義

第六回

鈴木弘恭講

貞信公

藤原忠平公のことなり。忠平は基經の第四子にして。母は彈正尹人康親王の女なり。宇多醍醐朱雀の三朝に仕へて。攝政關白太政大臣に拜せられ。小一條殿また五條太政大臣と號す。嘗て兄時平の業を續きて。式五十卷を編成し是を醍醐天皇に上らる。延喜式これなり。天暦三年八月八日薨す。齡六十六歳。或云七十歳なりと。信濃國に封ぜられ。正一位を贈らる。貞信公はその謚であります。

小倉山みねのもみぢ葉こゝろあらば今ひとたびの御幸またなむ

此歌拾遺集に出づ。詞書に亭子院大井河に御幸ありて行幸もありぬべきところなりとおほせ賜ふにことのよし奏せんとまうして云云とあり。亭子院は宇多天皇なり。大井河は山城國なり。小倉山の麓を流るゝ河なり。さて此の御幸のことは。大和物語にも大鏡にものせてありますが。大鏡には此歌紅葉の色も心あらばとあります○またなんは。俗にマツタガヨイといふことにて。此のまたといふ將然言より受けたるなんは。願のな

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んといふのであります○一首の意は。今日宇多上皇が大井河に御幸遊ばして。此の紅葉を見そなはして。さてもうるはしき景色であると御賞美ありて。今上の醍醐天皇にも此のさまを見せたきものであるとの玉へたが。この小倉山の紅葉よ。若し心があらうなら。今一度今上帝の行幸のあるを待タガヨイと也。此の一首にて。上皇が今上にも見せたしと思召す御父子の間の睦ましき大御意もみえ。貞信公が今上天皇にも見せ奉りたしと思ふ君臣の至情もあらはれて。いとめでたき歌であります○語格は。指辭なしになんと結びたれバ。徒の結びの格にて一段切れの歌なり

中納言兼輔

兼輔は。良門の孫にて。中將利基の子であります。作者部類に。延長五年中納言。承平三年薨す。從三位左兵衛督とあり。加茂川の堤の下に家居したるを以て。世人稱して堤中納言といへり。醍醐朱雀　兩　朝に仕へまつりし人であります。

みかの原わきて流るゝいづみ川いづみきとてかこひしかるらむ

此歌は。新古今集戀の部に題しらずとあります○瓶原も泉川も山城の國の名所之○わきて流るゝは。泉といはん緣語にて。上の句は序之。下の句のいつみきとてかといふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

よりが入用にて。未逢戀の意のうたゝ〇みきとてか。このきハ過去をさすきししかと運用くきにて。みきとてかは。俗ミタト云テカといふとゝ〇こひしかるは。戀しくわるといふを約めてこひしかるといふゝ〇一首の意ハ。瓶の原より湧て流るゝ泉川といふがわるが。その川の名のいつ見たと云てか此の女が戀しいであらう。一向に逢見たこともなき女であるがハテナア。と云ハれたるなり。すべて歌の上にていふ序といふハ。上にも。あし引の山鳥のをのしだりをのといひ。陸奥のしのぶもちずりといひ。住の江の岸による浪といひ。また下にも。淺茅生の小野の篠原といひ。ゆらのとを渡る舟人かぢをたえといひ。筑波ねの嶺よりおつる水無の川といふの類にて。詞をのどめて調を優ならしむるためなり。此の格ハ萬葉集などにもあり。古くよりいへることにて後世の歌にもわります〇語格ハ。一段ぎれの歌にて。いつみきとてかといふかが指辭にて。こひしかるらんといふらむにて結びました。らむハ俗言にていふときハデアラウといふとゝ。是を約めてダラウともいひます。

源宗干朝臣

宗干は。光孝天皇の孫。一品式部卿是忠親王の子ゝ。作者部類に天慶二年六月十日卒

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

すとあり。醍醐朱雀の朝の人であります。

山ざとは冬ぞさびしさまさりける人めもくさもかれぬと思へば

此歌は。古今集の冬部に載せたり○人めは。人見え之○かれぬのぬは。ぬぬるぬれと運用く辭にて。俗に畢ぬのぬともいふなり。テインダといふとにて。ハテタといふに同じ。かれは離の字の義にて。物の離散するをかるゝといふ之。故に人めのかるゝといふは。見えた人の離散してさらに見えぬと之。草木の枯るゝといふは。青々とした色の離散して白く乾き去ることゝ之。男女の中のかれたといふは親密なる中の離別して疎遠になりたると之。と知るべし○思へばは。俗にオモフガヤアソコデといふと之。ゆゑに此の思へばは上へ打返りて意を解す例にてと思へば山里は云云とつゞけて見るべし○一首の意は。山里は冬が一番さびしさが勝ることである。そのわけは人も離れてこず。草の青色も枯れて見所がなくなりはてたと思ふがヤアソコテ。山里は冬がいちばんさびしさが勝ることであると之。さてかやうに人めもくさもともの字の二つ重りたるときは甚輕き意にて。古今集に藤原興風が。恨みても泣てもいはんかたぞなき。といへるに同じ格之。又土佐日記に。男もすといふ日記といふものを女もして云云。

四

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とあるも同じ。さて奥風の歌も恨みてもいはんかたぞなき。泣てもいはんかたぞなきといふべきを上を省きたる格之〻此の歌も人めもかれぬと思へば。草もかれぬと思へばといふべきを上を省けるにて此例なほ多くあり○語格は。一段切れの歌にて冬ぞのぞが指辭にて。まさりけるのけるにて結びて切れたる格であります。

凡河内躬恒

躬恒は。其の先祖詳ならず。古今集撰者の一人なり。同書の序に前甲斐小目と見え。後撰集の詞書に御厨子所預とあり。作者部類に延喜廿一年正月晦任淡路權掾などありて。醍醐の朝の人であります。

心あてにをらばやをらむはつ霜のおきまどはせるしらきくの花

古今集秋部に載せたり。菊の花を見てよみたる歌であります○心あて。俗に當推量といふと之○をらばやをらむは。折ラウヨ折ラウといふと之○はつ霜とは。冬の始めに初めて降りたる霜をいふなり。初花初雪初氷などの初何々といふは皆同意あり○おきまどはせる。霜のことは降るとも置くともいへば。此所はおくといひたれど。實は降り置くといふべきを省きて云へる之○まどはせるは。惑ハシテアルといふ義之○しら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

きく。白妙白銀などの如くに白菊といひてよろしきやうなれど然らず。是れは躰言（名詞）の連合して一の名詞となりたる時は。即ち第一の音に轉じていふ格なり。然れども又白妙白銀とやうにもいへど。大かたはしらまゆみ（白檀）しらかし（白橿）しらすげ（白菅）しらたま（白玉）しらくも（白雲）しらやま（白山）しらかは（白川）とやうにいふなり。そは雨雲をあまくも。風除をかざよけ。竹叢をたかむらといふの類甚多し○一首の意は。今朝は初霜が眞白にふりて。白菊の花も葉も一つ色に見ゆるが。ヨショシ心アテヽ即ち當推量に折らうよ折らう。この初霜の降り置きて戯してある白菊の花をといふ意ゝ○語格は一段切れ徒の結にてをらんにて切れたり。下の白菊の花は。しら菊をといふ意にて。上へ打返して白菊の花を心あてに折らうといふとゝ。をらばやのやは指辭のやうなれど。指辭に非ず。詠嘆のやとて俗によといふ義であります。

壬生忠岑

忠岑は。其の先祖詳ならず。作者部類に從五位下安綱子ゝとあり。古今集撰者の一人なり。同書の序に右衛門府生とあります。忠岑嘗て和歌十躰といふ書を著はして。書中に先師土州刺史叙古今歌以自歸云云とかゝれたれば。貫之を師としたるにや。忠岑

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

また和泉大將藤原定國の隨身たりし時。或る夜定國醉に乘じて深更に。左大臣藤原時平の館へ立よりけるに。時平驚き出迎へて。何方よりぞと問れけるに。忠岑松明を持ながら進出て跪きて。かさゝぎの渡せる橋の霜の上を夜半にふみわけことさらにこそ。と取り爲して詠みければ。時平感じ悅び忠岑には物を與へて。快よく夜の明るまで酒宴したりとぞ。醍醐天皇の朝の人であります。

ありわけのつれなく見えし別れよりあかつきばかりうき物はなし

此歌は。古今集の戀部に載せて題志らずとあり。扶桑瑤林集には不逢歸戀とあり。さて此歌は古へより。有名の歌なれば。舊註どもにも種々の說あり。八雲御抄に。後鳥羽院の御時。俊成定家家隆に。古今第一の歌はいづれぞと御尋ありけるよ。兩卿は此歌をかきて進らせらる。俊成卿は此の歌に。むすぶての志づくよにごるといふ歌を書添て進らせられしとぞ。又古今著聞集に。陰明門院の中宮の時。六字の題を出して。人々に思ふ事をかゝせられけり。定家卿家隆卿なども同じく召しけるに。古歌に有明のつれなく云々此の歌をおなじく書きてまゐらせられけり。同心のほど優に與あるよし其沙汰ありけるとかや。とありますから余程名譽の歌でありしと見えました〇ありあ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

けのは。有明の月のといふ之〇つれなくとは。列ならなくといふとにて。他の我に同意せざる事をいふ之。たとへばつれなき人といふ時は。我心には戀しと思ふを他人は何とも思はず無關係にて。我が心に同意せぬをいふなり。故に無情などいふ言に近し〇あかつきは。明付之。明方に近付をいふ之〇うきは。形狀言にてうくうしうきうけれとくしきに活用する言にてうれしきの反對之。ゆゑに憂は嬉からぬことゝなり〇一首の意は。女の許に行きて逢ずして。夜深きにいたづらに空をながめつゝ歸るさまにて詠る之。さて意は。思ふ女に逢て歸るあしたにても名殘惜しさに。有明の月かげは無情やうに思ひて見らるゝものを。その別よりも一層憂きは。まだ夜の明ぬに逢ずして歸るときの曉ほど苦しいものはないと之〇語格は。一段切れの歌にて。うきものはといふはが指辭にて。なしといふなしにて結べる格であります。

八

○婦人病の元因

長谷川　泰

私が今日御話し申上まするのは婦人病の原因と申題で凡此の國が文明開化に趣きますると云ふと、從て開化と相伴ふ一の弊害が必ず免かれませんものでありまして、御婦人方に於きましては、男子とは違ふて、一種男子に無い一ッの御病氣があり容易ならざる結果に至ります、斯の如き病氣は色々有ますが殊に此開化の進歩と相伴ふ弊害から生ずるものが尤多數を占めて居り升、其原因に就て聊か淸聽を煩しまする積りであり升。

扨婦人病の原因と云ふ中にも種々雜多の原因がありまして、中々數へ盡す譯には往きません次第ですが、其の中で重もなる原因が六ッあります。其第一は空氣並に運動の欠乏あるのです。第二には神經系の發育過度と申まして、凡此人間の身體に於きましては身體を動かす所の筋と云ふものが有ッて、或は步行するとか動くとか色々の事をするものです、神經とは御承知の通り、我々が物を視ると云ふものか、聽くとか、文字を讀むとか、總て智識上に關係致しまする事、其外寒熱痛痒を知りまする事、斯の如き作用は、皆神經と云ふ、肉體の中ちに通ッて居る筋の樣なもの丶働きだが、此作用から起るのです、總て人間が今日健康にして生活を營みまするのは神經系の發育の度と、筋の發育の

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

度が、恰好幷行しなければならない。若しも神經の發育の方が割合に過ぎて、筋の發育が不充分なれば、種々なる病氣を釀します、是が第二の病原で。第三の原因は、衣服の不適當で有ります、御婦人方が召します所の衣服が適當致しません所から、色々の病氣が起りまして、是が爲めに御一身のみならず、或は御子樣迄關係を有しまする樣な、不容易の疾病を釀す事が有ります。ソレから第四、第五、第六は御婦人方にのみ有ッて男子に有りません所の一種御注意になる可き者でありますが、是は少し申し惡くいが、名丈けを申しますれば、月經時の身體の不注意か或は御子樣が生れた分娩後の不注意から、起る事もあり、又た結婚時に、身體の健康不健康に關して、大層御婦人方に御病氣の事が有りますが、特に御婦人方にのみ限りまして男子に無い所の一ッの病が發生する事が有りますが、其原因は、只今申しましたる六種の物の何れかより、發生するのです。尤今第一から第六迄申したのは、從來日本の御婦人方の衞生上の欠點に就て、硏究或は探索した點から申上まするのではありません、是は、外國に於きまして、歐羅巴或は亞米利加等に於て、只今申上ました或る原因の中から疾病を釀す所の現況に就て、申す積りであります。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ナゼなれば、私が西洋の現況を述るに就ては、聊か考へも有るのです、當今世の中の風潮を倩々觀察するに、實に滔天の勢いとも申しませうか、云はゞ大洪水が出て堤防を崩し、數十里間の人畜を流す可き勢いで、何んと是を形狀しませうか、私只何んとも申されません、驚く丈けの次第で有りますが、ソレ故に、從來に日本よ有りまする衛生上の欠點等に於て、病の有る事は姑く之を措て、目下の風潮に依れば、寧ろ外國に視る所の疾病の原因が、或は我國に於ける貴婦人淑女にも適當しはしまいかと思ふ所から、西洋の御婦人方の御病氣の原因に、尚一二の鄙見を申述べようかと云の考へで御座い升。

ソレ故に只今申した原因は、是を言葉を換へて云へば、開化の美麗、文明の粧飾です、是から起る所の婦人病の原因と云ふ精神です、開化美麗と云ふ中ちでも殊に我東京の如き、只だ、都府、開化、美麗から起る所の婦人病原因に就て申す積りです。扨只今申した所の一より六迄の原因の中ちで一々之を申しても、餘り事柄が錯雜して、却て御聞き苦しき次第と思ひますし、或は又醫者の方に寧ろ關係が多くつて、普通衛生の方からは餘り關係が少くない點が無きにしもあらずと考へる所から、第一第二第三と、此の三ツの事に就て鄙見を述べて、高聽を煩らはします。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第一運動の不充分空氣の欠乏なる所から、婦人の病の起る所を話します、亞米利加合衆國の人が申しまするに、何うも我新國は、我父母の國なる舊國歐羅巴の婦人に比較すれば、運動が少くない事は最う孰れも不の字を云ふ者は無い、歐羅巴であれば、假令ば英國の貴婦人淑女諸君などは、尤身體の運動十分に致されます、歐羅巴の婦人あれば、何程か男子の樣に戸外に運動します、又婦人方は馬に乘る、御聞及びも有りませうが英吉利の女皇陛下などは、宮内省の貴嬪を召せられて隨分長い所を騎馬で散歩なさる事などが有りませう、又婦人方がボートと云ふて船を繰ります、其外投毬とか身體の運動の爲に戸外に遊戯さるゝ事は英國の貴婦人淑女などは怠らず殆んど男子の如くに運動を致す譯でおります、然るに亞米利加人の申す所では、悲哉我新國合衆國に於ては、大都府の婦人自ら、舊國婦人の如き散歩、或は騎馬、投毬の如き運動は致しません、實に我亞米利加合衆國は、如何なる譯であるか、僅か一日一哩足らずの道を歩行する者い、恐らく一州百人とは有るまい、只歩行に要する所の筋を勞動する事一週間十四五町の道を歩行する丈けで、其外凡身躰の運動をなす、騎馬とか毬投げとか、其外の運動は、亞米利加婦人はしない、實に舊國に對して如何なる思想を懷いて居るだらうか、斯の如き成行で

一二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

我亞米利加合衆國が先に進んだなれば、是より子々孫々如何なる結果を來すで有らうか、實に慨歎す可き事で有る、ナゼ我亞米利加合衆國の婦人は斯の如き舊國に對して運動をしないで有らうか、亞米利加人が申すには、合衆國の大都府に於て貴婦人淑女の運動をしない事は、詰り英吉利其外歐羅巴諸國に於て貴夫人淑女が戸外の遊戯をする樣な騎馬或は毬投の如き運動法の遊びは亞米利加の流行の風に叶ハないのか、そんな事をすれば田舎の百姓家の妻君か娘かボーイかの樣な者で、貴婦人淑女は決してソンナ者でないと云ふ樣な事か、是が第一婦人の運動しない原因で有らう。次にハ、總て何處でも、御婦人方ハ容貌の嬌艶とでも云ふ可きか、奇麗に優さしくするのが人情のあたり前の樣だが、殊に亞米利加は容貌の嬌艶を作らんとする病氣の沙汰が有り、嗜好の一ッの癖で有る、是が一ッの原因で有らうと思ふ。

併しながら運動不足の原因は只今述べたる如く衣服の不適當の爲めで有らう、ナゼなれば、今日の如き服制で有るなれは、風も無く雨も無く穩和なる好天氣なれは、隨分洋服を着ても、貴婦人淑女が外戸に運動が出きるが、若し風雨其他天氣が惡いなれは、迚も今日の服では十分運動が出きない、戸外散歩などは行はれない話しでありませう、言葉を換

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へれは、穩和なる天氣の外身躰の營養上に緊要なる空氣の中で逍遙散歩する事は出きぬのであります、戸外に於てヱラク筋肉を働かすれは、ケ樣の遊びをするのは、詰り下等社會田舍間の婦人か乃至割烹店のボーイなどのする事で、淑女のなす可き事ではない故に、閑散の時は書物を讀むとか音樂するとか、是等の事を餘り過ごして、更に運動しない所から、遂に弊害を來たすで有らうと亞米利加人は慨歎して居ります。

此の亞米利加人の慨歎は、我日本に於て維新以來東京の風潮に餘程適當して居りはしないかと思ひ升、如何なる有樣か近來貴婦人淑女は美麗の洋服を召して、運動の遊びなどは何か下等社會のヤル樣な事で天氣の好き時にガルデンで遊ぶ樣な事が有るかは知れぬいが、昨今の風潮なれは、日に增し運動が減却しはしないかと思ひ升、貴婦人淑女が身躰の運動をなさるゝに就ては、却て封建の時代の方が餘程今より勝りはしますまいかと思ひ升、尤も封建時代には何も衞生上の爲ではなく、長刀を遣ふとか、何か武藝をなされたのみ、全く武邊の精神から出たので、婦人なからもまさかの時はと云ふのでしたらう、併し身躰を運動して疾病の原因を除くと云ふ點に至れは、矢張英國などで女皇陛下が馬に乘り貴婦人淑女が戸外に遊戯すると、歸する所同じではないかと思ひ升。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

只今の處では徒らに容貌の美麗のみを飾ッて身體を健康にする病氣にならない樣にする事は更に御頓着が無い樣に思ひます、斯く申せは、爰に御出席の貴婦人淑女に對しては失禮に當るかは知れませんが、今日御臨席の方々は悉く衛生法の事を御承知でも有り、大日本婦人衛生會と云ふものも設けられ勿論適當の運動をなさるで有りませうが、試に會員諸君外に眼を轉じて考がへたなれば、如何なる有樣で有りませう只だ美麗嬌艶とでも云はうか、更に身躰の運動、病の元を除くと云ふ樣な事に御注意になる人は無いと思ふのです、滔々として社會の風潮は、右の如とくに思はれる、シテ見れは、亞米利加人が歐羅巴諸國の人に對して慨歎すると同じく、東京の貴婦人諸君に對して斯の如き弊害は成る可く是を芟除して仕舞はなければならぬ事と思ひます、若し否らずして御婦人が此の儘ゝ運動もせずに居られたなれば、日本は一の病國となつて仕舞ふで有りませう、ナゼなれば親が病氣する計りでなく、親の病氣を子が承けます、弱い親から強い人は出きますまいし、概して云はゝ弱い母から弱い子が出きる。

總て病は遺傳するもので假令ば肺勞とか結核とか申す疾は「バッチルレン」と云ふて一ツの小さな虫が肺病の患者の手拭或は衣類などから傳染して肺勞になります、又「コレラ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

とか熱病とか云ふ疾がある、成程「コレラ」は一度に一萬以上も殺すが毎年有るものではない、肺勞などは殊に十五歳から三十歳迄强健なる者を斃すので在のみならず、子孫に遺傳致します、肺炎肺勞などと云ふものは弱い人に付くので肺の力が丈夫で營養が十分なる者あれば、其病を免るゝので有り升、私の見聞する所では、まだ結婚なさらぬ人は肺勞に罹る比例が少ない、殊に多いのは廿四五歳から三十四五歳迄の御婦人に多い、尤も多いのは何云ふ塲合かと云ふのに初め壹人の子供が御無難に御母子共育ッて、二人めから三人めのお子様が出きれば、遂に一年乃至一年半も經てば肺病になる事が多い樣に思ひました、斯の如くあるのは、遺傳の素質も有りますが、全躰肺の弱い人に一遍取り付けば助かる事が出きぬ尤も恐る可もので有るが、二人か三人めの子供が出きて一年か一年半も立ッて、何うも前の時から見れば何んだか身體の工合が十分でないと云ふから始まるのが、割合に多い樣に思ひます、是は私壹人の考へではない、既に醫科大學の人などにも此の事を度々話した事もありますが、成程或は然う云ふ樣に思はれると云はれた事もありましたが、身體の衰弱は實に可畏もので、身躰が壯健なれば抗抵力が强から大抵の病氣は撥つける事が出きるが、身體の弱い人なれば肺勞の如き病毒弱身に付込

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

まして命を取と云ふ譯であり升から、實に是等の事を考れば、平素から適當の運動をして御丈夫になさらなければならぬと思ます、只今申のは傳染病の事だが、其外の病「則ち子宮などの事を貴婦人淑女の前で申のは甚だ不調法の事とは思ひますが今日私が婦人病原の事をお話するに就ては餘儀なく子宮と申事も折々述るか知れませんがソレは偏へにお免るしを願い升」殊に男子に無い子宮病などは、運動の不充分から起る次第でありますから、何も虚弱の人が只弱い／＼と云ふて居らるゝ丈けでは困る、實に容易ならざる關係を持て居るものと思ひ升、今の風潮は只に身體の美麗を競ふて、東京府外の人は又府下の人の美麗を學ぶと云ふの有樣で御座いますから、此風潮に反對して相當の運動をなし、貴婦人淑女が疾病の原因を除くと云ふ樣になれば、各府縣に於ても皆身躰の運動をなし、病原を除くと云ふ樣になりませうから、東京府下の貴婦人淑女が運動なさるゝ事は、我日本全國に關係有る事と思ひ升。

扨斯の如き、淑女諸君の身躰の衰弱を、來たす中にも、殊に尤も害の有るのは、危險なる教育の方法であります、近來は段々文明になりまして、申迄もなく男子の學ぶ學科は何學問でも御勉强なさる事になつて從て政府に於てもソレ／＼女子師範學校高等女學校と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

か種々の學校が出きて各府縣に於ても大抵女學校の一ッ位は有ります、是等の學校に於ては、如何なる、有樣でありませう、私の見る所では公私の別なく身體の運動などの事に就ては更に頓着無い樣に思ひます、私の考へる所では追々當局者に於てもスッカリ面目を變じて男子の學校に於て兵式躰操をするとか丸で身體の運動の事に就ては一變しましたが何うも御婦人方の御勉强になる學校では兵式躰操をなされとは御勸め申しませんが適當の躰育法をなして婦人の身體を强健にする事は眞に必要の事と思ひ升、凡婦人の病氣は身體の衰弱が誘引となつて之を導くので有りますから願くは我大日本婦人衛生會の貴婦人淑女は右等の點を殊に注意して躰育法の事を御務めなさる事を望みます、是私が特に第一に運動空氣の二ッの物に就て鄙見を申す次第で有り升。

第二は神經系の發育過度と云ふ事です、是は初め申す如く我々の肉體は筋と云ふて皮の下に有る肉が働いて歩行いたします、其他の運動も悉く筋の働きであります、其肉の中に血の通ふ血管と云ふ物が有ります、其血管の中に血が通ふて我々が食事して肉が養の分を取て生活を營むものであります、其外神經と云ふものが有ります、凡そ聽くとか臭ぐとか視るとか寒熱痛痒を知るとか皆是れ神經の働きです、斯く我々の肉躰の中には神

一八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

經と云ふ一種の物が有ッて大層の關係をなします、シテ身躰を健全無事に保つには神經の發育と筋の發育と平均して往かなければならぬ、若しも一方の神經の發育が過ぎて天秤が狂ッては駄目です、恰好釣合を得る樣に神經も筋も共に發育するのが健康なる身躰で有ります、此平均は尤緊要なるものでありまして、能く衛生會の演説などに申ますが、健康なる身躰に健康なる精神有りとか、又同じ事だが軀幹健康にして精神初めて健康なりなどゝ云ひます、即ち丈夫な身體に丈夫な精神有りと云ふ譯です、然うで有りませう、今勇猛なる武將が有ッても若しも病氣で身躰が弱いなら百萬の兵を指揮する事は出きない、又内閣總理大臣にしても肺勞を病むとか、又多病で有るなれば萬機を司どる事は出きますまい、又商業に從事する人でも、年中病氣で有るなれば中々懸引する事は出きません、養蠶家が蠶を養ふにしても其通り、總て人間が生活して銘々の本分を盡すには身體が丈夫でなければ出きない譯であります、弱い身躰には必ず弱い精神がある、才子多病とか云ふて病身でも詩作が上手とか、畫を能く書くとか云ふが是は昔しの事で迚も今日多事の世の中に立つには才子多病では追付ません、是は私が申さずとも御來會の諸君に於ては百も御承知の事で有ります。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

偖神經と筋の二ッの發育平均は人間の健康上實に緊要のもので有りまして、神經と筋の不平均からして色々の害を起すが殊に弊害の多いのは婦人諸君で有ります、試に諸君二十年前の有樣は如何で有りませう、嬢樣方が學問するにしても今から見れば遊びの樣なもので學問と云ふ程では無い、女大學でも讀むとか、或は歌でも書くとか、手本でも習ふとか、其外下等社會に至れば幾分か八算見一でも學ぶか、其位の事で實に從前の有樣は今日から見れば學問仕無いも同じ事で、(男子も比例すればソンなものだが)ソレ故に其釣合から考がへれば昔しの嬢樣方は格別身體の運動をソウ御勉强爲さらずとも學問が格別六ケ敷無い遊戯同樣の譯で有りますから神經系統と筋の發育の不平均の樣な事は無い、高の知れた事で身體の害に成る樣な事はありません、然るに目今は如何なる景況で有りませうか、是は私贅言する迄も無く御來會の諸君は皆御存じで有りませう、實に當今に於ては御婦人方の課業は、男子同樣で有る、此點から考へれば昔しは學問即ち精神の發育と筋肉の平均抔と云ふ事はいらなかつたが、今日は昔しの十倍二十倍も婦人方が御勉强に成るのだから、精神上の働と身體上の働との不平均は如何計りで有りませうか是は申上る程の事は無いと思ひ升。

二〇

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

經濟學

北濵漁士

第一章　富の生產に必要なる物

富の生產の三要素

誰も知る如く、魚といふものは人間の生活に必要なるものである、即ち一の富である、併しながら海の中に泳でをる魚は誰も之を買ふといふものはない漁夫が之を網で漁つて市場へ持て來たとき、或は店に幷べたとき始めて富となる、左れば一の富といふものを得るには、第一に魚といふ天然の品物があつて、第二には漁夫が、其魚を食ふに便利な樣にして、便利な場所へ置くといふ勞力を掛るとが必要である、然るにまだ之斗りでは富を生產すとはできない、なぜなれば、漁夫は食ず飲ず網もなく船もなくして魚を得るとは出來ない、働く間の飲食の料と又魚を漁る一切の器械とが必要である、之を整るには貨幣が入用である、此貨幣を稱して財本といふ、故に富を生產すには第一天然の品物第二勞力第三財本との三つが必要である、ソコデ此財本は何處から出たかと尋れば、之は必ず此漁夫が之より以前に爲したる職業にて貨幣を儲たるとき、其儲けた貨幣を其時に悉く消費つて仕舞はずに、其中の一部を蓄ておいたものに相違ない、即ち節儉の結果

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

勞力の種類

である、其他農夫が田を耕し、大工が家を建るにも、其用ゆる器械及び食料等の財本は、皆な儉約の結果である。

第二章　富を生産す勞力

勞力とは、天然の品物に手を入れて、人の使ひ用ゆるに便利な樣に調る所の人の働きである、人間の用ゆる貨物は一として此勞力のかゝらないものはない、且其勞力は實に限りなきほど數おほきものである、假令は玆に一枚の衣服がある、此衣服は如何して出來たか、と尋ぬるに、之は反物を越後屋から買つて來て縫たものである、越後屋は之を反物問屋から買た、反物問屋は之を織物屋から買た、織物屋は木綿糸を買つて之を織つた木綿糸は紡績所から買つた、紡績所は綿を綿問屋から買ひ、綿問屋は仲買から買ひ、仲買は農夫から買ひ、農夫は種を播て之を耕した、斯の如く農夫の綿種を播しより、衣服になるまでの中には、或は車に載せ、船に積み、鍬を使ひ、馬を使ひ、或は手仕事もあらふ、或は器械仕掛けもあろふ、此等の器械は如何にして出來たかと尋ね出せば、實に限りもなき程の勞力がかゝつたものである、サレド此勞力の中には富を生産す勞力と富を生産せない勞力との二つがある、農夫職人坑夫等は總て富を生産す勞力者で有とは見

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

易き事であるが、貨物を生産さない者でも、矢張生産的の勞力者となるものがある、假令は物を運送する人、商人、其外學校の教師、巡査、兵隊、等も矢張生産的の勞力者である、若しも運送する人がなかりしならバ、一つの品物ハ同じ處に留つて、人の需めに應ずるとは出來ない、田には米許り、濱には魚斗り、積上げて腐すより外に仕方はない、又人の智識を增す教師、惡事を懲らす警察官、亂暴を鎭る兵隊、等がなかりしならバ、世の中は腕の强ひもの勝とありて、忽ち亂れる、世の中が亂るれバ人々は財本を蓄ても富を得ても何時他人に奪わるゝか分らぬから、誰も富を得、財本を貯るとに勉るものはない、即ち製造、商賣、なぞは衰へて仕舞ふ、シテ見れバ教師、巡査、兵隊、等ハ其手で直に貨物を生産す勞力者にはあらざれども、間接に一國一人の富を生産す勞力者である、富を生産さない勞力者とは何であるか、即ち俳優、藝妓、講談師、等の不生産的勞力者であるとは明瞭であるが、尙ほ生産的に似て其實不生産的の勞力なるもの少なからず、即ち事業の中廢、無功の消費、等である今茲に一の馬車會社ありて、東京と小田原の間に鐵道馬車を敷んとて株金も募り、道普請もなし、レールも敷き、橋も掛け、馬車も製へた、然るに又或る會社ハ此道中へ蒸汽車を設くる事を計畫した、ソコデ馬車會社は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

迚も其利益なき事を悟りて、事業を中ごろにて廢め、會社は解散した、此時には馬車會社が株金の募集、會社の組立、より道普請、レールの敷設、等一切の勞力は一の富を生産ない、即ち不生産的勞力者であつた、又玆に一人の職工が、十日間働て八圓の金を儲け、此金を以て回向院の角力を見物した、其時には八圓即ち十日間の勞力は、一の富を生産さない、若し之に反かへ八圓の金を以て財本となし、必要な入費に充てたならば、更にまた二倍三倍の富を生産たに相違ない、シテ見れば同じ十日間の勞力でも、其貨幣の用ひ方即ち勞力の結果によりて或は生産的ともなり不生産的ともなる、左ればとて人の樂みとなるとは悉く不生産的とはいへない、人は快樂の動物であるから偶には花も見、美味も食ひて心の鬱を晴さねばならぬ、心の鬱を晴し精神を爽かにして、明日よりは又一層の勇氣をもて職業に從事せば、其快樂は決して不生産的ではない、併しながら、昨日の劇場見物に頭痛せりとて學校を休む女生徒、昨夕の觀月の宿酔に今日も意地惡し、とて欠勤する官吏、等の劇場見物、或は觀月等は疑ひもなく不生産的の勞力である。

第三章　財本

世間には、財本といへば必す貨幣と考へておる者がある、之は大變な間違である、例へば

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

茲に一個の農夫がある、此農夫の財本とは何かと尋ねれば、即ち其所持して居る田地、鍬、鋤、牛、其他の器械、及び、働く間飲食する貨物、等總て次の耕作に入用のものが財本である、貨幣も財本には相違ないが、之を財本の役に立るには先づ品物を買ねばならぬ、貨幣を食ても躰は養ず、貨幣で田を耕すともできない、食物或は器械と換て始めて財本の役に立つものである、之等を總括して財本といふ、其財本なるものは前にも云ひし通り、儉約の結果である、茲に一個の農夫ありて、今年の春作に麥を作つて五十石を得て之をバン屋に百七拾圓に賣た、其百七拾圓の中より租税、雇賃、飲食料、運送費、等一切の入費が五拾圓かゝつたとすれば、詰り百貳拾圓が本統の儲けである、即ち以前の五拾圓といふ貨幣が、百貳拾圓とふゑた譯である、サア此儲けた貨幣をもつて奢侈に仕ひ無益な事に用ゆれば夫切りに消て仕舞ふ、其時には春の麥作大不生産的の勞力であつて、其儲けた貨幣は財本とはいわれない、若し之をもつて更に田地を買ひ、器械を買ふ等有益の事に用ゆれば、此百貳拾圓は更にふゑて貳百圓とも三百圓ともなる、即ち其百貳拾圓は財本と稱すべきものである、此く論ずれば或は左の如き疑問をおこす人もあらん。

今此農夫が麥五十石で百貳拾圓を儲けて其儲けた貨幣で伊勢參りをして消費つて仕舞

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

不生産的の浪費者は一國の財本を減ず

たとすれば、此農夫にとりては麥五十石といふ立派な財本を失つたとは明であるが、サテ其麥はパン屋の手に入りて立派なるパンと成りて人間必要の品となりしとゆへ五十石は飽まで五十石となつて役立つてゐるから、一國の上から見れば唯〳〵農夫からパン屋へ五十石が宿換をしたといふ斗りで、少しも財本を失つた、五十石を消して仕舞た、とはいわれまい。

此疑問に答るには先づパンといふ富の成立つべき履歴を尋ぬるが宜しい、およそパンといふ品物を製るに、一番始め農夫が麥の種を播き、之を生長て、之を苅入れ、俵に入れてパン屋に賣る、パン屋は器械で之を粉にしてパン種と混ぜてパンに燒くものである、其手續の中に伊勢參りといふとはパンといふ富を生産すに少しも必要はない、必要でないものに農夫は伊勢參りを爲して時を費し貨幣を費したのであるから、一國から見ても矢張り百二十圓の財本を失つた譯である、かくいへば又次の如き疑を抱く人あらん、今百姓が百二十圓を伊勢參りに費したとすれば、其百二十圓は東海道の旅籠屋、燕潙問屋、車屋等の手に入りて之等の商人職人が儲るではないか、シテ見れば農夫は百二十圓だけ財本を減じたとするも他の職人商人は丁度夫だけ儲けたではないか、若しそ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

不生産的の浪費者は世の商業職業を害す

ふなれば假令農夫が百二十圓を財本として用ひても、田地を買ふか、器械を買ふか、どふせ一度は消さねばならぬものであるから、其貨幣を田地の持主、器械の製造人に拂ふか、或は伊勢參りをして旅籠屋、蒸瀛問屋の手に渡すかとの違ひ丈けで、世の中の職人商人にとりては農夫がどちらに消費つてもツマリ同じ儲けをするではないか。

之に答るには次の如し全躰世の中の商賣人或は職人は、商賣或は職業の盛なる程利益が多ひ、然るに商賣及び職業は財本が多ひほど盛んである、其また財本は生産的に用ゆるほど多くなり、不生産的に用ゆるほど少なくなる、左れば今農夫が百二十圓を不生産的に用ゆれば、夫だけ國の財本が少なくなる、財本が少なくなれば商賣及職業が衰る、之が衰へれば商人及び職人の損となる、故に今東海道の旅籠屋或は蒸瀛問屋は、一時儲けた樣には見ゆれども、經濟上より見るときは、商人及職業社會が、不生産的の浪費の爲に、利益を得るといふとはできない、然るに世間には、何でも貨幣を澤山に消費ば、商人職人の潤ひとなると考へておる者は、大變な間違ひである、能く節儉をして、貨幣を蓄へ、之を財本として、生産的に用ゆる人ほど、商人職人の恩人である、サレバ、今日本國の富を謀るにも、一家一身の富を増すにも、一方には、成べく財本と勞力とを生産

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

節儉の誤解

財本は早晩消費せざるべからず

的に用ひ、土地の耕作を改良し、器械の發明を盛にし、交通を開き、運輸を便にし、時と智識とを利用して、入ることを謀り、又一方には節儉を行ふて、出ることを防ぐより外はない。

サテ今迄、節儉々々といふことを澤山云ふたが、世の中の人は、節儉といへば、貨幣を消費せずに、弗箱か穴藏の中に、納めておく事と心得てをる人がある、之は貨幣を積上た拘留したといふもので、之ほど不節儉の事はない、實に經濟上の罪人である、節儉とは不入用の贅澤奢侈を節して、ドン〱と生産的に消費ふことである、財本として用ゆることである、消費つて減らさねば、決して財本とはならない、

假令ば今百圓の貨幣を賃銀として、職人に拂ふか、飲食料に充るか、運送賃に費すかすばれ、其百圓は夫限りに忽ち消て仕舞ふ、忽ち消へても、百二十圓となり三十圓となつて、殖て皈つて來るから、其百圓は消たのではなく、立派な財本となつて、役立つたのである、又製造場とか、器械とか云ふものも、財本である、之は賃銀や、食物の樣に、一時に消へては仕舞わない、併し製造場も追々に古くなり、器械も漸次に脆くなりて消へて仕舞ふ、シテ見れば、財本といふものは、晩かれ早かれ消ねばならぬ、其一時限り

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

流通財本及固定財本

に消ゆる財本ハ流通財本といふ、賃錢とか食物とかいふ様なものなり、又其消ゆる事の晩く、用立つ事の永きものを、固定財本といふ、器械とか製造場とかいふ様なものなり、流通財本ハ一度の外、用に立ぬものであるから、今若し木綿を一反製らへ揚たとすれば、其一反の賣上高が、糸の買入、職人の賃錢、運送費、等に費やした、流通財本の高より多くなければ利得とはならぬ、即ち流通財本は直ちに報酬のある事を要す、之にひきかへ、固定財本ハ、一時に消ゆるものでなく、幾度も操りかへして役立つものであるから今拾圓にて機を買ひ、反物を織ても、迚も拾圓の財本を直ちに取かへす事ハできなひ、永き年月の間、百反二百反の上に拾圓を取かへせバ宜しひ、即ち固定財本は直ちに報酬のある事を要さぬ

流通財本の固定財本に變ずるに依つて職工社會に及すべき影響

社會が進歩するに從つて、追〳〵人の智識が進み、何事を爲すにも、人手を省ひて器械仕掛けでする様になつた、例へバ物を運ぶにも、昔しハ飛脚か、船頭に頼んだ、今ハ汽車、汽船に頼む、糸も昔しハ一本づゝ手から捻り出した、今ハ蒸汽器械で製らへる、即ち賃銀に仕拂ふ貨幣ハ、變じて器械を買入れる事となつた、斯の如く世の流通財本が、だん〳〵固定財本と變じて來れバ、職工社會には如何なる影響を及すべきか、と考るに、決し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

て職工社會には、害となるものではない、ナゼなれば、器械の利用が盛んなれば、製造の時間と勞力とが少なくなるから、富の生産が多くなる、富の生産が多なれば、財本が殖へ、財本が殖れば、製造が盛になり、職工の需要が增し、賃銀が騰るから、職工社會には利益こそあれ、害はない、ソコデ社會といふ字に氣を注ねばならぬ、職工社會には害はないが、職工一人にとつては、隨分損害を被ることもある、假令へば今まで、書物の版を刻るものが、多年熟練して、一日壹圓五拾錢の日給を取つて居つた、然るに一朝、印刷器械を輸入してより、活版といふ事が行われ、彫刻師の需要が減じて、廢業せねばならぬ様になつた、シテ見れば彫刻者は、一日に壹圓五拾錢、一月に四拾五圓、一年に五百四拾圓の歳入を失つた事である、其外馬車が出來て車夫が途方に暮れ、蒸滊船が出來て宿屋が迷惑する、等の類は數々耳目に觸るゝ所である、この人〳〵は氣の毒ながら、社會の進歩、富の增殖の犧牲になつたとあきらめて、外によき職業を見附出して、其當時入用の途に有つくより他に致し方はない、

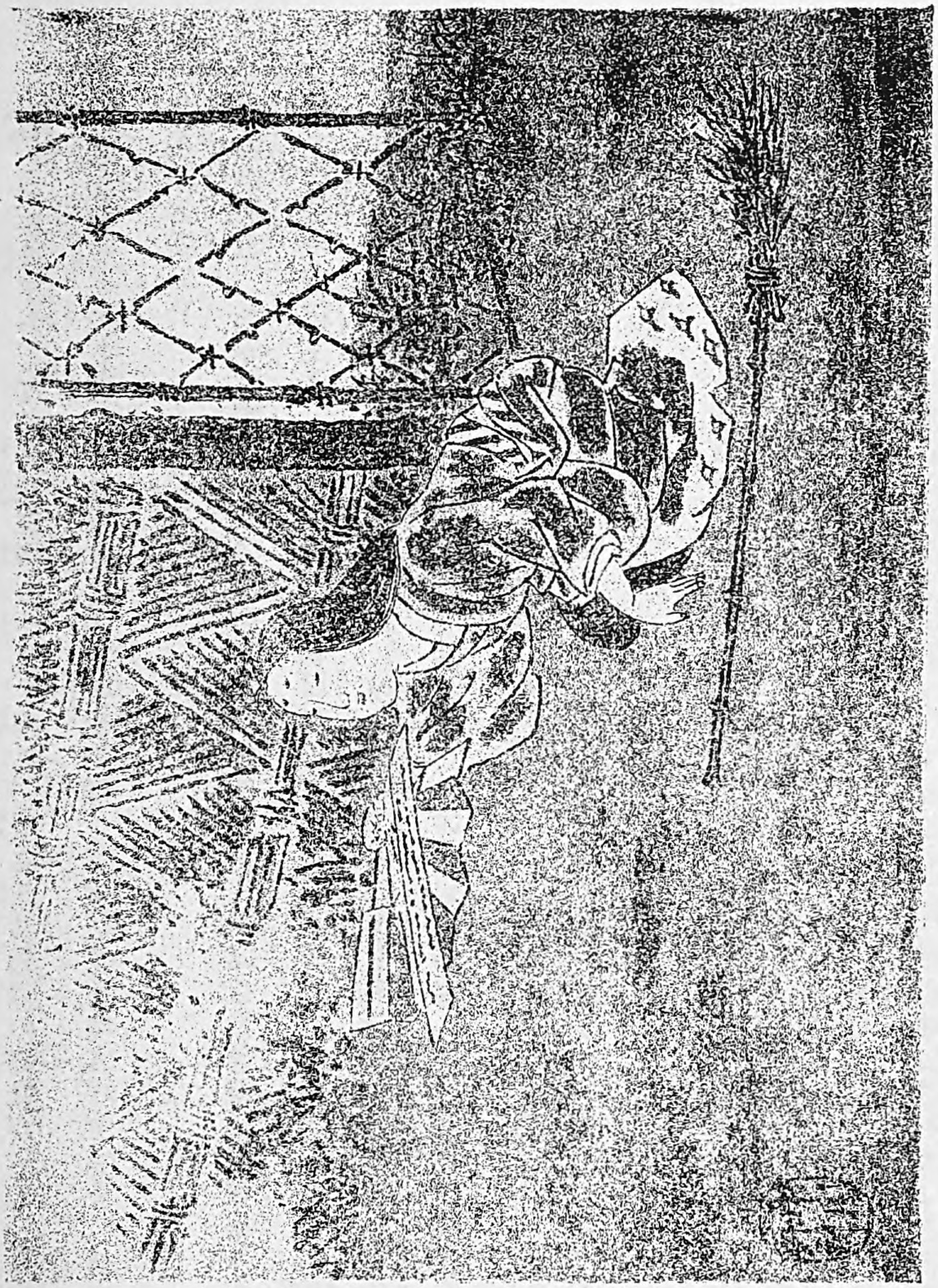
次に政府の取立る租税及公債が、一國の財本に、如何なる關係を及すかを、玆に説出す事は、誠に有益の事にはあれど、之を説んには、先づ租税及公債あるものゝ性質を、説

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明したる後ならでは、分明に解るまじと思ふ、故に此講義録の終において、租税及公債の事に論究したる後、特に財本との關係をお話し致すとなさん。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

(一八)



三二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○女子生理　（第十四回）

船越鼎太郎 講

第三章　分娩の事

分娩

分娩とハ妊娠の末期に至り成熟したる胎兒並に其附屬物の生殖器より體外に出て母子共に健全なるものを云ふなり。前章に於て懷妊中の婦人を妊婦と稱したりしか分娩の際ハ之れを產婦と云ふ。

陣痛の種類

陣痛ハ一種定規ある疼痛にして俗にしきり又ハむしと云ひ、恰も峠を越ゆるか如く疼痛漸々強くなり遂に極度に至り其れより漸次輕くなるものなり。分娩の初期にハ陣痛折々來るのみにして休期(陣痛休み居る時)長く且つ其疼痛も劇しからず、然るに分娩の末期に至り將に出產

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

せんとする時は一分時間二回位となり遂に毫も休息時なきに至る。陳痛は之れを發する時期に從て預備陳痛、開口期陳痛、娩產期陳痛、後產期陳痛、後陳痛とす。

預備陳痛即ち假陳痛は二三週日以前より來るものにして前章既に述べたる所なり。

開口期陳痛は子宮口の開大するか爲めに分娩時の初期に發するもの之れなり。

娩產期陳痛は破水したる後に發するものにして其疼痛最も烈しく之れに由て胎兒を產出するものなり。

後產期陳痛は胎兒を產出したる後卵膜を出たす時に發する疼痛なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

開口期陳痛

後陳痛ハ即ちあとはらにして分娩したる後に發するものなり。

斯く陳痛に五種ありと雖分娩生理に關するものハ開口期、娩產期、及後產期陳痛なり今之れを更に講述して分娩の經過を說明すべし。

第一期即ち開口期陳痛ハ分娩の初期子宮口の開大する爲めに發する疼痛にして、經產の婦人にありてハ子宮口俄に開大するを以て妊婦と產婦とを判然區別するを得べし。然れども初產の婦人にありてハ漸々子宮開口し分娩を致す一二日前に至れハ子宮下りて腹部の膨滿減り呼吸自由となり從て精神も爽に身體も輕くなるものな

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

り此時ハ家政を整ひ分娩時產褥中の用意より赤子ノ衣裳等に至るまて整備致し置くに最も好き時期なりとす。斯く分娩の一二日前に精神の爽快となるハ一般なれとも或婦人ハ此時に至て反て氣重憂悶ものあり。初產の婦人にありて分娩の一二日前より子宮下降し、經產の婦人にありては既に陣痛を發したる後にすると多しとす。子宮下降すれハ膀胱を壓迫し、尿意を催すと頻りなるとあり。斯く子宮の下降するハ分娩の最も早き前驅の症なりとす。此時に至れハ產道及外陰部の濕潤を增し稍や陣痛を催ふし而して血液を混したる粘液を外陰部より漏らすものなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

分娩時の惡寒

○分娩の時に產婦惡寒を來たし咬齒戰栗ることあり。然れども此時既に產婦の皮膚ハ反て熱くなりて發汗す。斯く惡寒するに至てハ溫湯を飲せ氈布一二枚を以てその身體を被ふへし。惡寒退き身體溫暖になるに至てハ漸次氈布を去るへし妄に溫りするハ產婦を苦め發汗を促すのみならず出產を遲延するものなり。

分娩時惡心

○惡心ハ屢々分娩の初期に來り或ハ分娩期中經續くとあり或ハ惡心のみならず吐嘔を起すとあり斯く惡心を起すハ惡徵にあらず反て之に由て產道を軟け之れに由て產道を擴けるものなり惡心ハ產婦の不快に感ずるものなれども醫師の差圖あるにあらざれバ妄に藥劑及種

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

々くのものを服せざるを善とす反て之れに由て悪心を促すものなり。

娩産期

第二期即ち娩産期陳痛ハ破水するより始まり胎児の全體産道より出づるまでを云ふ此時に至れバ陳痛彌烈く益々頻りとなり一種の呻吟を發し皮膚ハ温暖となりて發汗す。

分娩時の痙攣

分娩の際股或ハ脚に痙攣を起すと數々之れあり其痙攣を起すハ久しく一様の位置に産婦をあらしむるに由るなり故に分娩の初期にハ産婦を産床に居らしめず室内を逍遥せしむへし。痙攣起る時ハ疼痛も之れに伴ふものなれハ益々産婦に苦悶を發せしむるものなり。斯く痙攣

三八

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

平産には人工の補助を要せざること

の起りたる時にハ看護婦の温き手にて痙攣したる部を摩擦せしむへし若し分娩の初期に之れを發する時ハ或ハ産婦を坐らしめ、或ハ二人の看護婦、左右より産婦の手を携ひ室内を逍遥せしむへし若し其逍遥中に疼痛或ハ痙攣を發したる時ハ速に褥に就かしむへし。

平産ハ生理的の作用に由るものなれバ妄に人工の補助を加へざるを善しとす分娩を輕くし或ハ之れを速にせしめんと欲して妄に藥劑を用ひ手術を行ふて反て難産に陷らしむるハ愚なるヿなり平産にハ醫師のなすべきヿ甚た少く先つ産道の摸様を知り胎兒の位置を確め豫め其平産なるを知らバ醫師をして産室内にあらしむる

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

産室に夫を臨ましめざること

を要せず晝ハ客室に導き夜ハ臥床に就かしめ不時の事あるに備ふへし。

分娩の際夫をして産室に臨ましむ可らず産婦の分娩を終り不淨の物を取り方附けたるの後、數分時間之れに臨ましめ慈愛の言語を以て滿足と喜悅を述べしむへし。

分娩の全經過

後產期陣痛ハ胎兒生れたるの後胎盤の生殖器より出つるか爲めに發する疼痛にして娩產期陣痛に比らぶれハ大に輕く通例胎兒を產出したる後十五分より三十分を經て起るものなり。

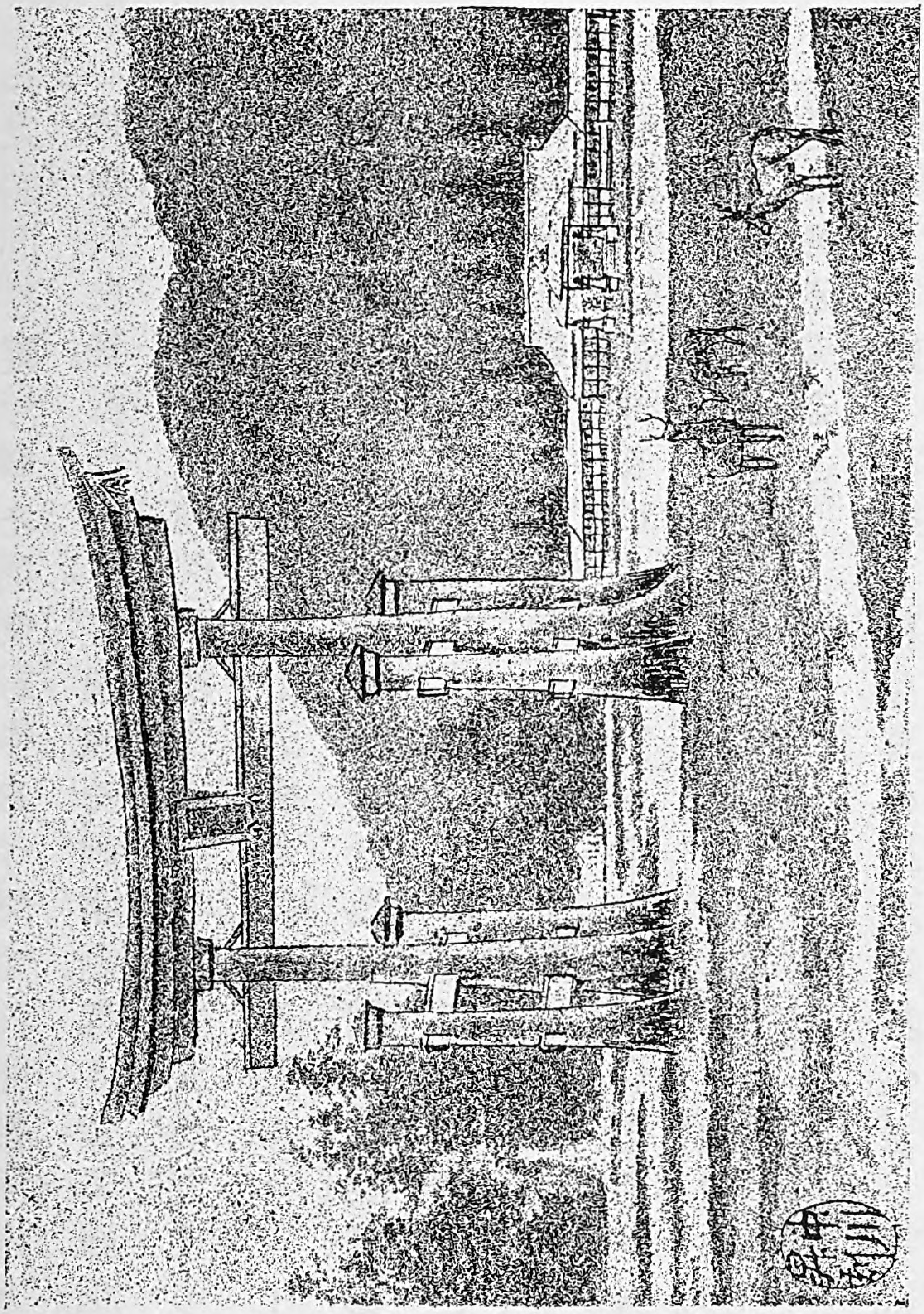
分娩の全經過ハ輕きものハ一時間位重きものハ二三日を要す。歐州の婦人ハ初產のものの二十時間、經產のものの十

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

二時間を要するを通例なりとす。然るに本邦の婦人は歐州婦人に比ぶれば其經過短く、我初產のものと雖彼經產のものより輕く、通例初產のものは大約九時間より十二時間を要し、經產のものは大約六時間を要す。

三十才以上に至り始めて妊娠したる婦人は初產の時に分娩は長くして且つ重し、然れども其婦人の經產は若き時に妊娠したる經產のものよりは輕きものなり。分娩の經過遲延したりとて必ずしも惡きものにあらず反て急に分娩するものよりは傷害を受くるとも少く日足とも速なるものなり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY



四二

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○育兒心得（第十四回）

船越鼎太郎 講

第二章　孩兒の事

衣服

問。衣服ハ如何なる目的にて用ふるものに候や。

答。衣服ハ體温を外氣に奪はれ水蒸氣の放散するを防く爲めに用ふるものに候得共箪子若くハ皮櫃を開き衣服の染め方より裁縫の仕方を一見すれハ其意を多く用ひたるハ衞生上の要點にあらずして流行的の裝飾にあるを知らるべし。動物園の孔雀ハ其羽毛壯麗にして觀客の眼を樂しましむれども其身體を運動するにハ極めて不便なるとに候らハん。衣服及裝飾の流行に附てハ種々

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

笑ふべきこと多き中に亞非利加土人の一佳人臂に巨大の銅環を箝めて飾とせり然るに此裝飾好の佳人も熱帶地方の炎天銅の臂環を燒くにや勝へ兼けん其從者をして壺の中に水を携へさせ折々彼の臂環に水を注かしめたりとのことなり之等ハ實に可笑ことながら西洋人の皮櫃の中にも日本人の簞子の中にも之れに讓らさる不都合の裝飾品澤山之れあることと存じ候。

問。衣服を作る原質のことに付き承り度候。

答。衣服ハ植物性の原質と動物性の原質と之れあり。植物性のものハ麻、綿、護謨、等にして動物性のものハ絹、獸毛、毛皮、鞣皮、等に御座候。木綿、麻、絹の如きハ其纖維、獸毛に比

四四

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

すれバ眞直にして之れを織るも其織目正しくして亂れず然るに毛織物ハ之れを織り倣したる纖維不規則にして纖維と纖維との間粗大ならず且其纖維に彈力ありて互に壓し固めらるゝと少し故毛織物ハ木綿、麻布、絹布、に比すれハ多量の空氣を含むものに候。衣服の温暖なるハ其中に含む空氣の量に由るものにして新き綿入ハ綿の硬くなりたる古綿入よりハ暖く、夜具も日光に暴らして膨くるゝ時ハ前夜より暖きハ此理に由るものに候。又衣服ハ其中に含む水分の多少に由り躰温を失ふに差違あるものにして水分を含むと多けれバ體温を失ふと速なり故に濕りたる衣服を着するハ害あるものに候。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

問。孩兒の衣服ハ寛きものと狹きものと何れか宜く候や伺ひ置き度候。

答。孩兒ハ身體の發育速なると恰も草木の青き若枝の如し此時に其發育に害を加ふれハ其害甚た多くして生涯の不具となるものなり故に孩兒の衣服ハ寛濶くして窮屈なる可らず帶若くハ紐を緊く締むれバ胸廓の發育を妨け呼吸血行の作用を害し狹き頭巾或ハ帽子を強て戴らしめハ頭の血行を碍け頭痛を發さしむるものに候。

問。頭巾及帽子のとに付き承り度候。

答。胸及腹ハ適當に温く致し頭部ハ反て涼く致す樣心得らるへし。孩兒の帽子ハ寛き藁性のものにして廣き縁

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

あるものを撰むへし之れ發汗を自由に放散し日光を避くるに便利なり殊に割りたる麥藁或ハ絲瓜の髓にて製したるものハ輕くして孩兒の帽子に適するものとす。冬ハ毛絲の編物にて作りたるハ輕くして温く加ふるに耳を被ふに便利なり其色ハ白若くハ紅を撰むへし白及紅なるものハ美麗なるのみならず温きものに候。獵虎の如き毛皮及絹製の厚き帽子ハ重くして且つ發汗を妨け頭痛を起し頭髪を薄くし孩兒の帽子にハ適せざるものに候帽子なくして炎天に暴らさるゝ時ハ眼病を發し或ハ日射病と申す恐るべき病を起すと之れあるものに候。

間。冬日戸外に出づる時ハ孩兒の手足を如何にして温

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に保護致すべく候や。

答。冬日は手及足を保護するを忽にす可らず毛絲の手袋と膝に達する程長き毛絲の足袋を用ひらるべく候。

問。孩兒の寝衣にはフランネルを用ひて宜く候や。

答。孩兒は夜具を脱ぎ寒冒に罹ると數々之れあるものなれば之れを豫防するにはフランネルの寝衣を用ふると宜きとにして木綿の下着の上に之れを重ねて用ひらるべく候。

問。孩兒を强壯にする爲めに薄着せしむるは如何ののに候や

答。孩兒に餘り厚着を致たさせ其運動をも妨ぐるに至

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

らしむるハ固より宜しからぬことに候得共、強壮にする目的を以て強て薄着せしむるも亦害あることにして反て此目的とハ反對の結果と相成り申すべく候貧窶人の孩兒ハ薄着をするより種々の病を引き起し死に至るもの多きハ其惡き何よりの證據に御座候。

問。孩兒の薄弱なるもの寒冒に罹り易きもの。病氣後のものにハフランチルの下着を用ひて宜きものに候や。

答。實に宜きことと存候。フランチルハ體温の放散し難きものなれバ天氣の急に變るも能く身體をして之れに應ぜしめ皮膚を輕く摩擦して其血行を宜くするものに候。又孩兒の寒氣に侵され氣管支加答兒或ハ肺炎に罹りた

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

る時は必ず速にフランネルの下着を用ひらるへく候。其フランネルの色は白きものより紅きものを撰らまるべし、紅きものは其色孩兒に用ひて希麗なるのみならず洗濯するも白色のものゝ如く縮少なると之れなき者に候。

問。孩兒の履は如何なるものを用ひ候てよろしきや。

答。孩兒の履に木履若くは草履に紐を附けて用ひ足趾の間に鼻緒を挿入るも、足趾の作用未た充分に發達せざるが故に、少く歩行すれば忽ち鼻緒は趾より外れ履は横となり殊に木履は之れを轉捩すれば足の關節を捻挫き或ハ轉倒して外傷を蒙るの恐れあり、寧ろ適當なる沓を用ふることそ優れるとと存候。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

煖氣の時候にて天氣宜き時にハ麻裏草履の鼻緒なきものを上沓の如く製したる子供沓に紐を附て用ふるも便利なり。革靴ハ四時晴雨ヲ論ぜず用ひて宜く候。靴の狭小なるものハ足及趾を不具となし又表皮剝脫及難眼を生ずるものに候。孩兒の靴も足の形に從て趾の所ハ廣く致し趾の重ならざる樣にすべし。又足の形に從て左と右とあると大人の靴の如くし、決して左右同形のものを用ふ可らず。又靴ハ鈕子若くハ紐にて止める樣に致したるものを用ひらるべく候。

問。孩兒の足袋ハ如何なるものを用ひ候て宜きや。

答。冬日ハ羊毛にて作り膝の上まて達する長足袋を穿

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

かしめ半股引ハ膝の下まて達するものを用ひしむべし而して長足袋ハゴム若くハ紐にて脚に止むるハ宜からず。之れ下脚の血行を碍け筋肉を弱し歩行を妨くるものなり。必す半股引に耳を附け長足袋の紐を之に通して結び置かるべく候。孩兒に日本風の足駄及草履を用ひざる時ハ日本風の足袋を用ふるに及ハぬとにして莫大小若くハ編物の足袋を用ひて差支之なきとに候。足袋も亦其足に應ずるものを撰むべし過小なる時ハ趾を屈曲して眞直に伸びざるのみならず互に相重なり歩行するを得可らず。又過大なる時ハ足袋ハ靴の中に折て趾の上或ハ下に疊まり之を壓迫疼痛を發さしむるものに候。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

文學一斑（第十三回）

語格（其九）

第四階連體言の助辭つゞき　ばかり　ごとし　ごと　は

第四階連體言の助辭つゞき
ばかりハ終止言を承るとその意かはることなし。貫之集「いろならばうつるばかりも染てまし思ふ心ハえやハ見せける」連體言をうくる助辭にハ此等の他にごとしとはとありごとしハ如の字の意にてヤウと譯す。思ふごとく思ふヤウニ見るごとくハ見るヤウニの意なり。又ごとゝも云り万葉集廿巻「今日のごと見んと思へば。後撰集「こゝらちる花はるにあへるごと」など尚は數多あり　はハことなるハ詠歎の詞にして言語の尾にそへて餘意をあらはすに用ゐるなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第五階既然言の助辭

ばはニヨッテの意にして花さけバハ花ガ咲タニヨッテと譯し。山里に住めばハ山里ニ住ニヨッテと譯すべし。此なるばは既然をいひ將然言なるばは將然をいふなり混ふべからず　どは反對のことをつなぐ助辭にして俗にはケレドといふ意なり。金葉集に「思ひす。つれどはなれざりけり」といへるすつれどは思ひ棄タケレドと譯して意明けし　どもはどにもをそへたるにてその意も大畧はおなじ。斯れバ俗譯も亦ケレドにモをそへてケレドモの意と心得べし。古今集「春霞たなびく山の櫻花みれどもあかぬ君にもあるかな」みれ(見れ)ハ麻行一段の活用第五階既然言なり。見れどもハ見ルケレドモと俗言に譯せバ意明かなり　此なるどもと終止言なるとも

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とハ並に雖の字の意にして唯清濁の異なるあるのみ。然ど終止言を承るとも［ ］ハ未定の詞こ丶のども［ ］ハ既定の詞なり心して混ふべからず

活用助辭

助辭にハ活用と活らかざるとあり（活らく助辭とハ［ず］が［ずぬね］と活らき［む］が［むめ］と活用の類をいふ。活らかぬ助辭とハ［ばてと］等の如く一語の外にハ動かぬをいふ）此に活用助辭を揭てその變化を示す。活かざる助辭の如きハ混ふ廉なければ更にいはず

第一階將然言の助辭

ず	ぬ	ね
む		め
まし		ましか

［ばでじなん］等ハ活らくことなし。［なん］ハ第二階連用言を承る助辭の中にもあれど意異なり。第二階なるハ活らけど此なるハ活らかざるなり」活用助辭の圖を三階に分ちしハ三に別る丶係辭によりて其助辭も變化して上の係辭を結ぶが故なり。但し第一階ハはも徒第二階ハぞのや何第三階ハこその係辭を承て結ぶ助辭たるなり（係辭のことハ講義錄第十巻六葉以下に載す）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第二階連用言の助辭

つ	つる	つれ
けり	ける	けれ
あん		あめ
き	志	しか
ぬ	ぬる	ぬれ
けん		けめ

ては活らかず。たりはたるたれともいへどてありの約りたるにて良行四段一格の活用と異ならざれば別に此には出さず

第一階將然言のなんは願望の意ありて俗にはウナラヨイタラヨカラウなどの意となるあり。然ど此なるなんは未來をおしはかる意ありて俗にマショウテイナウなど譯語を當べきなり。且つ第一階なるは活らかず此なるは活らけり

なんは未來を推量しけんは過去を料度したる詞なり（講義錄第十二卷六十五葉を參見せよ）餘はみな過去をいふ詞なれど係辭の輕重によりて承る助辭におのづから强弱あり。試みに一つ二つをいはゞ「花はさきつ」はの係辭は輕きゆゑに其を承るつもつるつれにくらぶれば輕き助辭にして俗には花は咲イテシマッタといふ程の意なり「花ぞさきつる」ぞはよりは重き係辭ゆゑにつるも隨てつよりは重し俗に花ぞ咲イテシマッタワイなどいふ意となり。こそは亦ぞよりも更に重き係辭ゆゑに其を承るつれも至て强き助辭なり「花こそ咲つれ」花こそ咲イテシマウタガマアといふ意になるなり。他の助辭もこの例をおして强弱の區別をさとるべし

五六

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

（一）形状言の活用
（一）現在の詞

第三階終止言の助辭

らむ		らめ
べし	べき	べけれ
めり	める	めれ
まじ	まじき	まじけれ
なり	なる	なれ

らしなばかりかしとども等ハ活らかぬ助辭なり。此のなりハ第四階連躰言を承るなりとハ意おなじからず（講義錄第十三卷四十三葉及び五十葉を合見せよ）

第四階連體言の助辭

あり	なる	かれ

にをよりまでかなばかり等ハ活らくことなし。此のなりハ第三階終止言のなりと異なり（講義錄第十三卷五十葉を見よ）

第五階既然言の助辭あるはどゞもハ活らかざるあり

係辭と結辭との表

はも徒	し さ△　べし、なし、うし、さむし、のどけし
そのや何	き　べき、なき、うき、さむき、のどけき
こそ	けれ　べけれ、なけれ、うけれ、さむけれ、のどけれ

△の印を附したるは下段に例をあげてその詞の用ひざまを示せる合ひ印なり

はも徒、そのや何、こそ、等は係辭なり。此等の詞の上にあるに隨ひて結辭は異れり（講義錄第十卷六葉以下を見よ）

徒とは上に係辭となるべき詞のなきをいふ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（二）過去の助辭	き（見き、ありき、なかりき、おもひき）	し（見し、ありし、なかりし、おもひし）	しか（見しか、ありしか、なかりしか、思ひしか）
（三）うちけしの助辭	ず じ△（見ず、きかず、ゆかず）	ぬ（見ぬ、きかぬ、ゆかぬ）	ね（見ね、きかね、ゆかね）
（四）良行四段一格の活用	り（あり、をり）	る（ある、をる）	れ（あれ、をれ）
（五）	けり（ゆきけり、さきけり、おちけり）	ける（ゆきける、咲ける、おちける）	けれ（往けれ、さきけれ、おちけれ）
（六）	めり（おくめり、おすめり、すむめり）	める（おくめる、おすめる、すむめる）	めれ（おくめれ、おすめれ、すむめれ）
（七）	ぬ	ぬる	ぬれ
（八）	つ	つる	つれ
（九）	まじ	まじき	まじけれ
（十）	む（見む、きかむ、うたむ）	む	め（見め、きかめ、うため）
（十一）	まし	まし	ましか
（十二）	なり	なる	なれ
（十三）	なん	なん	なめ
（十四）	けん	けん	けめ

△こひしさ、善(よ)さ、あしけさ等のごとし

△見じ、ゆかじ、得じ等のごとし

うちけしとは其事がらを無(なく)して打消すが故の稱なり

せり、せる、せれ。なり、なる、なれ。たり、たる、たれ等の下につくりるれは皆こゝの部に加(くは)へらるゝなり

此(こゝ)なるけりけるけれはゆきけりさきけり等のけりにして連用言を承る助辭のけりなり。あけり、ゆけり、さけり等(ごと)のけりは四段の活用第五音より轉(うつ)る格の活らきなれば此のとは別なり。四段五音より轉るけりは上の表の第四なるりるれの部に加ふべきなり混ずべからず（講義錄第九卷廿一葉を參見すべし）

こゝのなりは第三階終止言を承る助辭のなりにして第四階連躰言を承る助辭のなりとは別なり此(こゝ)のは詠歎のなりを擧げたるなり。連躰言を承るなりはにありの約(つゞ)まりたるなれば表(へう)の第四りるれの中に入るべし

五八

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

(十五)	(十六)
らん	てん
らん	てん
らめ	てめ

ぞ□の結び止めはも徒の格

右に表はし、三段の係辭を結ぶ詞ハ多くハ助辭のみなれど用言活用圖(講義錄第六卷)にかゝげたる終止言(第三階のならび皆)ハは□も徒の結びとなり。連體言(第四階のならび皆)ハぞ□の□や□何の結びとなり。既然言(第五階の並びハ皆)ハこそ□の結びとなるなり(講義錄第十卷六葉を見よ)その他にも尚くさ〴〵の結辭あれど定まりたる三種の係辭の中へ入なバ初學のために紛らはしかるべければ更に掲げ出し例證をも引て悟り易からしむ

ぞ□(ぞは□ぞや□ぞも□など云るはや。も。ハ皆ぞ□に添たる詞にて別に意あるにあらず)といふ詞にて結び止たるなり

(講義錄第十卷七葉を見よ)月詣集「あまつ風くも吹はらへ名をともに二

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

なぞの結び止めはやの係辭のみを承く

いかにの結び止めはも徒の格

ばやの結止めはも徒の格

夜の月ハ今宵ばかりぞ」古今集「いで我を人なとがめそ大船のゆたのたゆたに物おもふころぞ」

ぞは　六帖「白妙の衣かたしき春日野にわかなつみしハ誰がためにぞは。

ぞや　拾遺集「いざりせし蜑のをしへしいづくぞや島めぐるとてありといひしハ」。

ぞも　古今集「ぬししらぬ香こそ匂へれ秋の野に誰がぬぎかけし藤袴ぞも」など云るぞの下のはやもハ詠歎の詞にして言固めのぞにそへたるまでなり但しぞの意を強くせり

なぞ　やの係辭を結ぶ　拾遺集「玉川にさらすてづくりさら〳〵に昔の人の戀しきやなぞ」

いかに　万葉集「大海の波はかしこし然れども神をいはひて船出せバいかに」

いかにハ俗にドウジヤといふ意にして問ひかくる詞なり

ばや　六帖「露をだに玉とおしつる蓮葉におもふ心をいれて見せばや」

ばやなといふ詞もあり。千載集「みせばやなをじまの蜑の云〻このなもばやにそへたるにてばやの意を強くハすれど意ハおなじ

六〇

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

ねはも徒の格

よはも徒の格

なはも徒の格

金葉集「さやけさハ思ひなしかと月影を今宵としらぬ人に問ばや」ばやハ俗にタラヨカラウといふ意なり。見せばやハ見セタラヨカラウ問ばやハ問フタラヨカラウと譯しなバ歌の意明かなるべし

ね　ねハよの類ひにて願望の意を含めり　新古今集「玉の緒よたえなバ絶ねながらへば忍ぶることの弱りもぞする」

よ　てよよなも意ハかはらず　古今集「萩のつゆ玉にぬかんととれバ消ぬよし見ん人ハ枝ながら見よ」よハ願ひの意なると命令の意なるとあり

な　後拾遺「天の河のちのけふだに遥けきをいつともしらぬ舟出かなしな」このなハ詠歎の詞にして俗にナアといふ意なり。舟出悲しなハ舟出ハ悲シイワイナアと歎ずるなり。な云〻そといふときに用ゐるなハ制止のなにして勿字の意なれバ又別なり。古今集「夏山になくほとゝぎす心あらバ物おもふ我に聲なきかせそ」夫木集「關守に口かためてぞ我はゆく泣ぬとつぐな山の鶯」などいへるなハみな制止のななり。而して制止のなも亦はも徒の格にて結び止むるなり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

か」はも徒の格

か」 かもかなのもなれかにそへたるにて共に詠歎の詞なり。新古今に「今か」さくらん山吹の花」また古今集に「くるゝか」と見ればあけぬる」などいへるかれ疑ひて定めがたく思ふ意をあらはすか」なれば此なるか」とはおなじからず 古今集「あかなくにまだきも月のかくるゝか」山の端にげて入ずもあらなん」万葉集「湊入の葦分小舟さはり多みわが思ふ君に逢ぬ頃かも」」六帖「ひとりのみみつの堀江にすむ鴫の底はたえずもこひわたるかな」

古今集のかも萬葉集のかもも六帖のかなも皆おなじ意にて俗にアーヤアなどいふ語に當れり(講義録第十三巻四十九葉を見よ)

六二

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

軟木硬木の相違の事

軟木硬木の燃方

○家內理學（第十一回）

第九章　人工温熱並に薪炭の事（其二）

凡そ薪にする木にても、其外惣べての木にても、皆な硬き軟らきあり、此は其の木の品によりての相違なれども、同じ木にても、亦其生じたる土地の違ひによりて、硬くも軟らかくもなるものなり、例へば、樫は硬く、桐は軟らかきものなれども、此の同じ二種の木にても、其產地の何如によりて亦軟硬に多少あるなり、左れば、惣じて森または濕りたる豐饒の地に出來たる木は、割りに軟らかく、野原または乾きたる瘠地に出來たる木は、割りに硬きものなり。

扨て、木には斯く軟らかきと硬たきとあるところ、之を燃

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

相違及び其理由の事

し見るに、軟木は早く燃え去り、硬木は久しく燒くの相違あり、之は抑も何故ぞと問ふに、一躰薪木の燃ゆるには前後二つの期限あるものなり、第一は薪木が燃えて其の焰より熱を發する間だ、第二は焰すでに立去つて眞赤になりたる燒け炭より熱を發する間だ、之れなり、然るに斯く二つの期限に分ちて申すときは、彼の軟木は、第一の期限に於て多く熱を發し、硬木は第二の期限に於て多く熱を發するなり、夫故硬き木はゆる／＼と燃えて、後にヲキの殘ると多けれども軟かき木はポツ／＼と燃え去つて後に炭火は殘すと少なし此の相違は、何に因つて起るかと尋ぬるに、一つは、軟らかき木の木質はキメ粗らくして空

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

氣の入込み易きより則ハち早く燃え去ると云へるとも
あらんが、之よりも更らに深き一つの道理あるなり、夫を
何ぞと云ふに、元來純粹の木質(即ハち薪木などより水氣
を除き、他の混合物を除き、後に殘りたる正銘の木材質の
ことなり)は何如なる木に於ても、皆な同樣の成分を含む
ものにて、之れを化學上にて申せば、炭素十二、水素十、酸素
十より成立つものなり、即ち酸素水素の割合は丁度水を
造るに適當したる割合にて存するとゆへ、(水は酸素一水
素二の化合して出來るものなり)凡そ純粹の木質の燃え
去るときには、其の炭素のみ燃えて、他の酸素水素は都合
よく水と成り、水氣に變じて立ち去る筈のものなり、然る

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ところ、茲に薪木の内に木質より外の何物か混合し居て、所云る純粹の木質を造るよりも餘計の水分などが存在し居るときは、其の燃え去るに付きて關係する所ろ少なからぬことなり、即ハち、彼の軟らかき木は、割に多くの水素を含み居るゆへ、(純粹の木質に存するよりも餘計の水氣を含むなり)此の水素は前に申したる如く酸素に合して水となるのみにてはなく、更らに亦た自から其の儘にて燃ゆることなし、水素の燃ゆることは前章にも說述したる所ろなるが、兎に角斯くして燃ゆるときには、亦た夫相應の炭素をも併せて燃やすとゆへ、扨ては水氣に富みたる軟木は、甚ハだ早く燃え去つて、而かも後に炭を殘すと

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の甚だ少なき譯なり、而して彼の硬き木とても決して純粋の木質のみより成立つに非ず、固より亦た多少の水氣其外の混ざり物を混ずれども、之を軟木に比すれバ、言ふ迄もなく純粋木質に近き成分より成立つが故に則ち其水素酸素の多くは水と爲りて飛び去り、炭素は獨りゆるゝと燃えて、而も后に殘ることなり。軟木の早く燃えて炭を殘すと少なく、硬木の遲く燃えて炭を殘すとの多き理由は、大畧右の如きことなれども、左らバ、通常人の申す如く、軟木は硬木よりも熱力少なきかと云へば、決して然らず、成程軟木は早く燃え去れども、此は其熱を暫時の間だに發し去るゆへにて、言ハゞ若干の熱を固めて出す

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

が如し、硬木のゆる〳〵と久しく熱を發すると遲速長短の相違ある計りなり、故に軟らかき木は總べて物を早く急に温たむるに適し、硬き木は物をゆるやかに徐々として温たむるに適するなり。

炭とは、言ふ迄もなく木を蒸燒にして、木の中の水氣瓦斯氣などを取去りたる殘余の木質なり、大抵の木は其の目方の一割五分乃至二割五分が炭となるよしなれども、之を燒き製するとき、若し余り急いで燒くときは、炭の出來高割合に少かるべし、尚又燒たての炭は純粹の木質なれば、之を燃やすに焔の立つとはあらざれども、若し之を暫らく置くときは、水氣自然と其の炭の中に入込むゆへに、

六八

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

堅石炭の事

斯るのちに之を燒くときは、水氣の水素燃えて例の如く焔を發すべき也。

石炭と云ふは、地下に埋もれて炭となりたる太古の草木なり、元來は矢張り一と通りの草木にてありしならんが、久しく地中に埋沒したる中に、水氣瓦斯氣など悉く出で、去りて、略ぼ純粹の木質に似たるもののみ殘りたると也、然るに、斯く石炭となりたるものにも、既に全く炭となりたるもあれば、或は尚ほ全く炭とならざるもあり、即ち其の炭化の多し少なしによりて、石炭にいろ〳〵の種類を生ずるとなり。先づ、英語にてアンスラサイトと云ふ堅石炭と稱ふるものあり、之は、石炭の尤も舊るく尤も堅き

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

軟石炭の事

ものにて、其の質は殆んど全く純粋の木質のみ、只だ僅かなる硫黄の氣之に混じたる計りなり、左れば、堅石炭を燃やすときは、自づから硫黄の氣の香るとあり、即はち彼の混合したるものゝ發散することなり、而して此の石炭は火をつけらるゝとき、中々容易には燃えず、先づ全躰にその光熱を行きわたらせて、扨て其後全躰一時に燃え上るべし、而して一たん燃え上りたらば、最早決して消ゆるとなし、ゆる〳〵として甚はだ強く燃ゆるものにて、喩へば彼の薪木中の硬木の燃ゆるに似たり。

堅石炭は、石炭の尤も熟したるものなり、然るに未だ斯く迄に熟せずして而も種々の雜り物ある一種の石炭あり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

英語に之をビチウミナスコールと云ふ、或は燃土などと云ふものもあれども、先づ稱して軟石炭と云ふ方適當なるべし、軟石炭は木質の外に、石腦油瀝青などの如き油氣を存するゆへ、之を燃せば甚だ早く燃え去り、且つ其の間だに多くの白き油煙を發するとなり、而して此の軟石炭にも亦た甲乙の二類あり、一は中にも油氣の多き濕りたるものにて、油質の軟石炭と云ふ、之を燒けば油しみ出でて、全躰悉くとろけ、遂に一つの塊まりとなるなり、他の一つは油氣のやゝ乾いたるものにて、乾質の軟石炭と云ふ、之を燃せば甚だ好く燃えて都合よろしきなり。但し、此の軟石炭なるものは、之を其儘に燃やさずして、之

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

炭の温を發する力の事

よりガスを製造するとあり、府下に於ても既に其の製造所ありて、専ら斯の軟石炭を蒸焼にし瓦斯を採るなり、而して瓦斯を取りたる後に殘るものを、コールと云ふ、之れぞ今日多く石炭と稱へてストーブなどに焼くものなり、固より軟らかく穴多くして彼の堅石炭に比ぶべきにはあらねども、亦是れ一種の便利なる石炭として用ゆべきなり。

扨て以上木炭と云ひ石炭と云ひて、いろ〳〵の炭の品あるところ、其の炭の温を發する力には、此の炭の品によりて多少あり、由て先づ其概略を言へば、木炭の一斤は寒水七十三斤を沸すに足り、堅石炭の一斤は寒水六十斤を沸

薪炭を燃すに入用の空氣の事

かすに足り、乾きたる薪の一斤は寒水三十五斤を沸かすに足ると云ふ。

而してすべて薪もしくは炭を燃やすには、空氣の中の酸素を之に近づけねば成らぬとゆへ、扨ては物を燃やすに空氣の通はねば成らぬとあり、尚ほ空氣を多く入るゝと即ハち風を入るゝとは、其の燃ゆるとの速にする道理あり而して何程の空氣が此の時に入用なりやと云ふとも知り置くを可とす、即はち木炭一斤を燃やすには空氣十一斤四六即はち百五十六方尺丈の分量を要すべし、石炭一斤を燃すには空氣九斤二六即ち百二十三方尺丈の分量を要し、乾きたる薪一斤を燃すには空氣五斤九六即

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ハち七十五立方尺丈の分量を要すべし、竈を造るにもストーブ及煙突を造るにも此の道理を知り置くは甚ハだ大切なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○小供のはなし

第十六回　小娘と蝦蟇

或る金持の小娘裏の花園へ出て指に差してありし金の指環をぬき投げ上げつゝ遊びて居りましたにフトあやまりて其指環を井戸の中へ落しましたモ少し大きな物なれば錨でとれますあれど小さき指環の事でありますから中々とれません小娘は指環がとれないとて井戸側に立ちヂダンダ踏して泣ております時に一匹の大きな蝦蟇が出て來まして小娘に向ひツー泣きやシヤルナ若し私の願通りにしてくるゝなれば其指環を取り上げて進ぜんと申しました小娘は若し指環を取りてくるゝなれば御前が望む衣服でも靴でも何んでも差上げるからドーヅ取りて下されと申しまする蟇はイヤ私の願ふものは衣服抔ではありません只あなたが私を愛してくれ同じ膳にて食べ同じ室にて眠らせて下さるヿでありますと答へました小娘は其は何よりも易ひこと屹度其通りにしてやるからドーヅ其指環を取りて下されと申しました其實はドンナ事を云ふも彼は蟇であるから大丈夫トテモ水を離れて我家へ來るまじと思ひましたからでありますサテ蟇は其約定を致しおきまして直ちに水の中へ飛び込み暫して金の指環を銜へて出て來ました小娘は喜び禮をも十分に述

べずして我家さして歸りました猿は後よりオイ孃樣暫し待ちて下され私はソー早く得走りませぬからト云へど回顧もせず一目散に走り歸りました晩方になりまして家内打ち揃ひ夕食を致し居りました時誰やらん孃樣々々と頻りに戸を叩く者あり小娘は走り出て戸を開けまするど最前の猿が居るものですから驚き其戸を閉て色青ざめて内に這入りました父は何か化物でも來りしやと問ひましたに小娘はイヤ化物ではありません猿が來たのでト申す折又劇しく戸を叩き孃樣々々最前のお約束をモウお忘れなされましたかと云ふ聲がするサテ何の約束ぞと父は更に小娘に問ひましたに小娘は彼の指環を落せしことより猿の云ひしことゝ並に其指環を得しことを申しまして且つ彼は猿の事であるゆへ決して水を離れて我家へ來るまじと思ひしゆへ約束を致したと申しました父はソーイウ不信の事をなしてはいかぬ約束通りに茲處へ呼び入るべしと命ぜられましたから致し方なく猿を呼び入れ己が椅子の側におきました猿は用捨なくサーあなたの膝の上へ上て下され私は脊が低ひから膳に手が屆かぬイヤ其皿をモ少し此方へよせて下され私もお一緒に食べますからと憚もなく申します小娘は實に厭やそうなる躰をして苦しそうにして居ますれど約束なれば致し方なく其云ふまゝにしておきました追々猿は満腹したと見へヤ疲れました今

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

より直に寢ましようサあなたの絹蒲團の上へ連れて行きて下されませと申しまするを小娘はモ溜らぬと思ひシクシク泣き始めました父は怒りたる顏をして己か入用なる場合においで約束をせしことは何にても屹度其通になさねばならぬと叱られましてシブ〳〵蟇を連れて自分の室に歸りました先づ蟇だけを入れおきて自分は外に行うと思ひましたなれど蟇はイヤ蒲團の上へ寢してくだされさなくば父上に告げ參らせんと叫ぶものから據處なく心地わるくも自身の蒲團の上へ寢さしまして自身は其側に座りておりました蟇は頻りに蒲團を引き被りまして暫し立ゐするど足が勞いから少し揉みてくだされと願ひますイヤイヤながらも揉みてやらんと蒲團を取り上げまするど今まで蟇と思ひしは間違にて其形は餘り驚きたる時あれば明かに見へざれど老たる人の如し聲和かに申すやうわれは小兒の神にして常に小兒を育て小兒を守り又小兒を敎ふる神なり爾は年倘ほ幼なけれど常に虛言を言ひ親兄弟を欺き友達を欺くと云ふ事既に我耳に達したり虛言を吐く程惡き事はなく人を欺く程罪なる業はなしもしこれが積りなは人の物をも竊むに至らん誠に恐るべき事なり我小供の國におきて虛言は第一の禁制にして虛言を云ふを第一の惡事となせりされば今我は爾か虛言を言ふを聞き捨ておき難き事とおもひ曩きに身を蟇にや

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

つし爾と約束を結び爾の指環を取上げ爾に返せしも皆爾を矯めんためにして後爾の家に來り無理に爾を煩はせしも全く爾を正さん爲めなり然るに爾はイヤイヤながらも尙ほ其約束を全くせりこれ我か滿足して躰を爾に示すゆへなりこれより後順正しくすれば我は必ず爾に幸を與へんと申されまして小娘は大に己か惡しきことを悔ひ泣なから實躰に禮を述べ父に告げんと室を出て父を呼びて其室に歸りましたに最早小兒の神は去り玉ふて影躰もなく只枕の上に光るものがある見れば金の指環なり何やら付てある能く見るに爾が後悔の程慥に見受けたれば其賞としてこれを爾に與ふ尙心を正ふして父母に事へ友達に交りなは一層の賜を與ふべしと書き記してある其端に母よりとありツヽデ其小兒の神と思ひしはこれ全く現實の其母なることが分りましたされど如何にして襃となり玉ひしやら解りませぬものから或は眞實に小兒の神樣の下り給ひしかとも思ひ愈順正しく致しますと母は度々褒美を與へますものから遂に小兒の神は母親であるとのみ思ひますに至りました。

第十七回　尤も尊き所行

むかし戰爭の大層に流行つた亂世にある老人が三人の子供を召んで申しますに自分も最

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

早や斯く老年と成たれば兼て貯へたる金銀財寶を三つに分けて汝等に取らすべし能く之を大切に保護して且つ自分を養ひくれよと云はるゝに子供等は父が斯樣に年の老ひたるを悲しみ乍らも皆な確かにお受をして承知致しぬ然るに老人の申すに此上更らに一つの品あり之は先祖代々傳來の寶刀にて子供の中ち尤も尊うとき所行を爲したるものに取らするの規則なれば今ま汝等が之れ迄で行ひたる所行のうち自から尤も尊うときヿにてありしと思ふものを語り玉へ其中にて眞に第一に尊ときものへ其の寶刀を與ふべし先づ季の弟より語るべしとあるにぞ、

末の子の答ふるようは或る日旅の人が私に莫大の金を入れた包を預けて暫時他所へ參りましたヿがあります其時包の内には何程の金がありしか存じませぬが旅人も亦た別段之を勘定もせずして只だ其儘に預けましたゆへ若し此時私しに惡心がありましたならば其中の一つ二つを取とも知れざりしヿなるに決して斯る惡心を出さず正直に預かつて居て渡しましたが之れをば先づ自分でも善きヿを爲たと思ふて居りますと、云ふに老人は成程夫れは正直であつたがまだ〳〵之を尊とむべき行とは云はれません人の物を預かつて之を正直に保護するは當然の事であります若しも其時汝ぢ之を一つにても取らんには乍

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

まち盜賊と爲るべし盜賊と爲らざりしとて何も尊うときにはあらず。仲の子は如何なるとやあると問はるゝに、其の答ふるよう、嘗て或る村を通りました時幼な子が遊び戯むれて居りましたが如何のはづみにや傍はらの河に落ちたり誰れも之を救はんともせず見て居りましたゆへ私は驚ろきて馬より飛下り直樣飛び入りて之を助けましたが先づ此の事が一番に善い事を爲たと思ひ居りますとなり、老人の云はるゝに之も亦た善い事であつたが然し人の死せんとするを助くるは當然の事で若し之を其儘にして置かば之より不信切はあるまじ犬ですら人を助け鳥ですら同類を憐れむに況して人間が可愛き幼な子の苦しむを見逃すべきにあらず若し之を其儘にして通りしならば汝ぢは世にはづかしき慘酷の人と爲るのでありしが之を助けたるこそ善行なれ左れば是れ又當然の事を爲したる譯ゆへまだ／＼これを尊うとむべき所行とは申されず。兄は何如なるとやあると問はれて、

兄の申すようは今年二十五には成ますれど未だ仰せの如き尊とむべき事とては一つも致したるとなし只だ何卒萬事を棄てゝ其樣なる事が致したいとのみ日夜に望み居りまする計りで別にお話し致すものも御座りませんと云ふ、老人重ねて問ふらくよし／＼一つも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

尊とむべき事を致さゞりしと云ふか然し此迄爲したるうちにて何如なるとか一番に心に喜ばしう覺へたると云ふに、左ん候それハ或る日の夕暮馬に乘つて彼處の道を歸りまするとき馬が急に驚ろいて足を止めましたゆへ靜かに下りて何物や居ると吟味しますれば嘗て私を大勢の中で惡口嘲弄したのみか其後私を見付次第必らす打切つて棄てんなど申し居る某と云へるもの酒に醉ふて昏睡し道の傍はらの岩の上に睡り居ります若し最少し身を動かさば乍まち數千丈の谷へ落ちませうところ私は先づ近づいて之を抱きしめ靜かに搖り覺まして眞に危うかりし若し私に怨みあらバ何時にても尋常に勝負いたすべし今日は酒にも醉はるゝ樣子他日重ねて相見んと申して別れましたが其後彼れは復た私を附けねらはぬよし抑も初め何故に私を怨みましたかは知らねど其の怨みが散じたとの事は何よりも喜ばしひとてこれが今迄の中にて第一の喜びでありますると答へました。

老人は大に之を賛め汝ちが怨みに報ゆるに恩を以てし之を助けたとハ既に尊とき所行であるに之をば左程には喜ばず先づ彼の思ひ違への晴れたるを喜ぶと尙更らに尊とき事なり然るに此の尊とき所行をば尙ほ足れりとせず未だ心に尊としと思へるほどの事を爲したる覺へなしと云ふはいよ〳〵以て賞すべき所存なりこれこそ三人の處行のうちにて第

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

一番の尊とむべき所行なりとて乃はち彼の重寶の刀を與へける。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣告

●女學雜誌殘本大安賣

女學雜誌は毎號に御承知の如き、社說、佳傳、叢活、及び諸家の論說等あり且其時々の新報を洩なく掲げたるものあれば、右第一號より第百號に至る百冊を御覽あれば即ち一百八の賢婦烈女の傳記、一百篇の有益なる社說、三百餘篇の面白き叢活、六十餘人の名家の婦人論ありて、其上明治十八年より明治二十一年に至る凡そ三年間の女の出來事を悉皆承知するとを得べし。之を合して机上に備かるれば大ひなる姫鑑となるべし、之を遣ひ物にせらるれば凡そ五圓以上の代價何圓と申しきれぬ實價候はん、時々の浮たる小說、もしくは一二百頁の婦人論の書物を講讀せらるゝよりは必らず利益多かるべしと確信せり、而して此の一百冊を左の低價にて賣拂ひ可申候

女學雜法初號より百號迄で何號にても百冊御購求被成下候諸君へは特別割引**金壹圓**にて御望の號數取揃發送可致候

但し愛讀諸君より續々御注文にて當時欠號十七八冊出來致し候に付き一號より百號迄一揃ひ八十冊餘御注文の諸君へは一冊壹錢の割引即ち**金八拾錢**にて發送可致候

府外は別に郵送料八十錢申受くべし尤も通運等に便利なる土地は實費を以て御屆可申上候

右は殘本を取まとめ候ものに付き成べく早く御注文無之に於ては早々出はらひ可申と信し候

東京々橋區日吉町八番地

女學雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

交詢案内

（催促する勿れ 郵券十錢送れ 委細に申來れ）

● 雇ひたき方（甲）

十一 學婢 年齡十五六位のキリスト敎信徒にして薪水の業に從事し傍ら英學編物等の受業に志ありて給料に望みなき者を雇度所あり

十二 下婢 下婢年齡廿歲より五十歲迄の基督信者を雇入度者あり

● 雇はれたき方（乙）

六 奉公 地方師範學校卒業生にて學資に困むに就ては可成西洋人宅にて兩人協力勉學旁雇へれたき二娘あり無給にて何地にてもよろし

七 裁縫 年齡廿三にして家内の手助けとならんが爲め内職に裁縫より雇へれ度き者あり華族樣か町家ならば大家のかたき内にて築地邊ならば通いてゞも宜しとのと其他ハンケチーフのふち縫の如きにても宜し

十三 敎師 栃木縣女子師範學校の卒業生にて何處かの學校或は他の御内にても敎授に雇はれたきものあり可成くは麴町か駿河台邊を望む

十四 洋行 身元慥なる十八歲位のものにて英漢學も可なり出來るものにて學問研究の爲め貴婦人の歐米に航せらるゝ御方の小間使ひとなりて隨行を願ひたし

一九 召使 裁縫の敎授を專にし其他女子學校等監督兼留守居樣の者に雇れたし

二〇 裁縫 年齡十四五才にて華族樣か或官員方の御方之内に小間使に雇へれたし最も餘暇讀書授けくだされば給料は不申受

● 喜びのめぐみ

十 敎師 乙第二十二號は甲第十號と相談調ひたり

定價

通信女學講義錄一册七十頁以上定價二十錢
半年分前金一圓 一年分前金一圓八十錢也
但し右何れも郵税を要せず

是迄發兌の分

前號まて既に十三號と相成り即ち一ヶ年分餘を出版したると爲りぬ。凡是迄の分を一まとめにして買入らるゝには同じく右の割引を致べく。通信女學は初めより引續き御覽なくては利益も少かるべしと存候に付改て從前の號數購讀を勸め參らす

廣告の事

廣告料一行五錢に改む但し二十行以上は一割引四十行以上二割引とす。此講義錄は久しく保存せられ永久貴婦人方の机上に備置かるゝものゆへ之に廣告せらるゝは他の一日限りの新聞紙もしくは一時流行の雜誌などに廣告せらるゝよりは御便利多かるべしと存候事

期日

本錄は毎月十五日を定日として出版す同日もし日曜日に當れば其翌日といたし候

東京京橋區日吉町八番地
發行所 女學雜誌社

東京々橋區日吉町八番地寄留
持主兼編輯人 巖本善治

東京芝區源助町十一番地寄留
印刷 森田豐

東京秀英舍印行